

利用—水生植物ホテイアオイを例として—
化学と生物 18: 231—236.

豊田清修. ハス『植物の生活誌』(堀田編. 平凡社):
149—155.

Ahmed, S.A., M. Ito & K. Ueki. Water quality
as affected by waterhyacinth decomposition after
2, 4-D and Ametryne application. Weed Res.
Japan 25: 286—293.

Ikusima, I. The adventive spread of submerged
plants in Lake Biwa, Japan. Tropical Ecology
& Development, 1980: 855—860.

—————. Recent contributions to the study of
aquatic macrophytes in Japan. Proc. 1st Work-
shop for the Promotion of Limnology in Develop-
ing countries (1980, Kyoto): 7—12.

Komiya, S. & C. Shibata. Distribution of the
Lentibulariaceae in Japan. Bull. Nippon Dental
Univ., Gen. Educ. No. 9: 163—212.

○「古川市化女沼およびその周辺地域植物調査報告書」
(古川市教育委員会、昭和56年4月、86P+写真15P)

近い将来、化女沼にダムが築造されるため、「現在の姿
を記録するとともに、その保護や保存のための資料とす
ること」を目的として、地元の先生方が調査された報告
書である。周辺の植生、化女沼の水草について結果が報
じられている。貴重な植物として、水草ではミズニラ、
デンジソウ、オオトリゲモ、タチモ、キクモ、ジュンサ
イがあげられている。植物目録から水草をひろってみる
と30種を越え、この沼が豊富な水草相を支えてきたこと
がわかる。ダムの築造によって水位が2m上昇するとい
う。水位管理の仕方によっては、ほとんどの水草が消滅
するだろう。このような報告書が出るのは喜ばしいこと
だが、それがこの沼の水草たちの最後の記録になる(か
もしれない)ことは寂しいことである。

水草については、次の報告が含まれる。

高橋弘子・高橋和吉. 化女沼の水生植物と水生植物群
落(pp.18~21)。

水草関係文献目録(1)

新しく出る文献については『文献リスト』で取り上げ
ていますが、このコーナーでは、1975年以前の文献を
リストアップしてゆきます。すぐれた着想の仕事であり
ながら、その存在すら忘れ去られているものが少なく
ない現実を思うと、このような作業も決して無意味では
ないと考えます。昨年より、暇をみてはいろいろな雑誌に
あたり、現在までに500篇近くリストアップしています。
今後、紙面の余白を借りて少しずつ掲載してゆく予定で
す。短い記事もできるだけ拾うようにしましたが、講演
要旨、抄録等は省いてあります。(角野)

<1887>

斎田功太郎. 東京産輪藻科植物. 植物学雑誌 1: 33—
36.

染谷徳五郎. 食虫草たぬきもノ説. 同上 1: 77—82.

牧野富太郎. 日本産ひるむしろ属. 同上 1: 2—7.

<1888>

伊藤篤太郎. 蓴菜粘稠液細胞論. 植物学雑誌 2: 99—
106.

染谷徳五郎・池野成一郎・牧野富太郎. ひしもどき
(*Trapella sinensis* Oliv. ?)ニ就テ述
ブ. 同上 2: 171—173.

(無署名). 水草ノ葉. 同上 2: 16.

(無署名). おにばすノ花. 同上 2: 87.

<1889>

岡村金太郎. ひつじぐさ科植物ノ比較解剖及ビ其分類.
植物学雑誌 3: 73—90.

—————. 水草の比較解剖. 同上 3: 272—274,
329—333, 374—376.

賛化園主人. 最長キ和名ヲ有スル植物. 同上
3: 346—347.

牧野富太郎. まるばおもだか(*Alisma Plantago*, L.
var. *parviflorum*, Back.)ノ胎芽繁殖.
同上 3: 71.

(無署名). たぬきも(*Utricularia vulgaris*, L.)ハ
多年生本ノ一ナリ. 同上 3: 144.

<1890>

岡村金太郎. ひしもどきノ発生. 植物学雑誌